

なるため、ビット内に蒸気配管をしてオイルパンの予熱,あるいはエンジンの周囲に温水を張込む必要がある。また -15°C 以下になるとさらに困難となり、ウェバストヒーターのようなものを設備し、車両は車庫内に収容しなければならない。

(*温水設備)。

6 機械設備

気動車を検修するための機械には、機関その他重量品を操作する天井(てんじょう)クレーン、モノレールクレーン、部品を加工する旋盤その他の工作機械、電気溶接機、空気圧縮機等がある。その他機械にはすえ付ボイラ・蓄電池に充電する充電機、洗たく機械がある。

7 構内線

気動車区構内の車庫以外の線を構内線といいつぎのようなものがある。(1) 入出庫・引上および到着線 入出庫線は原則として2線とし他の作業に支障されず入出庫し得るようにする(2) 給油線 入出庫線に直接連絡できる配線とし、その容量は1時間最大給油両数4両、または4両1編成につき1両分または1編成分とし、1両分ごとに給油・給水取出口を設ける(3) 収容線 収容線群は両抜型が作業上便利で車庫内線、洗じょう線を含めて最大滞泊を収容し得るものとし、1線当り4両または2編成くらいが適当である(4) タンク車線 燃料油槽に近くタンク車留置線を設けて油の取おろし、空車の留置を行う(5) その他の線 編成を組かえる組替線、材料車を入れる倉庫線、試運転線などがある。

以上の構内線と各車庫内に敷設された線路とを総称して**気動車区線**といっている。

8 諸建物

気動車の車庫・職場以外の建物を諸建物といつぎのものがある。区長室、事務室、気動車運転士の運行・点呼をつかさどる運転助役室、気動車検修業務を運営する検修助役室、運転士の運転上の指導をする指導助役室、乗務員室、乗務員休養室、講習室、浴場、倉庫等。

9 電力設備、通信設備

電力設備には変圧器、照明電灯。通信設備には構内電話、指令・交換・公衆の各電話、電気時計、サイレン等がある。

10 その他の設備

消火栓、従事員通路、自動車通路、排水設備等。

(宇野浩彰・鈴木 宏)

きどうしゃけんさがかり 気動車検査掛 主として気動車区におかれる職で気動車区長の指揮をうけ、気動車掛を指導して気動車の検査(仕業検査、運転検査、交番検査、局部検査、50,000キロ検査等)・修繕・注油および分割併合作業ならびに検査に関する技術業務に従事するものである。

気動車検査掛の職務には、気動車を運転した経歴のある人の知識経験を必要とする面があり、他面修繕と直結しているので、運転関係と検修関係の2つのルートから採用している。

(加藤誠次郎)

きどうしゃこ 気動車庫 (英) Diesel car shed 気動車の検査・修繕または収容等を行うための車庫。

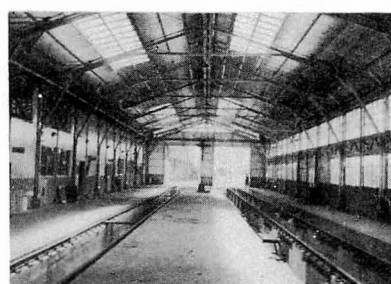
気動車は戦前ガソリンカーが多かったが、戦後は軽油を用いるディーゼルカーに変化している。気動車庫の形状は新設の場合は矩形庫とし、在来機関車庫の一部利用として扇形庫に防火間仕切り壁を設けて使用している所もある。車庫の構造は軽構造ならびに防火上鉄骨(または古レール)、屋根・側壁ともスレート葺が多く、一部北海道のような寒冷地は壁コンクリートブロック・屋根鉄板葺を用いている。車庫を使用目的別に分類す

ればつぎのようである。

1 修繕車庫

気動車の走行キロ 50,000 km または前回から9箇月以上経た車に対して、エンジンの取替・そのほか要部の解体作業を行う

いわゆる50,000キロ検査,あるいは臨時に発生する臨時修繕等を行う車庫で、つぎのような付属設備を設ける (1) モノレールクレーン5t (2) 機関取出装置 車体からエンジンをジャッキによりはずし、浅いビット内に設けたレールにより横取りする装置 (3) 検査坑 (4) 機関台 (5) 水栓および圧搾空気取出口 (6) 職場。この車庫内にもうけられた線路を修繕線といい、修繕両数ならびに延長の算定は下表参照。



気動車庫

車庫種別	線路種別	両数	延長 m ()は車庫延長	線路間隔 m
修繕車庫	5万キロ検査線	0.0001 RN 2分	26n+5 (26n+7)	修繕線相互 6.5 修繕線とその他の線路エンジン解体側 7.5 反対側 5.5
	臨時修繕	0.05 N		
交検車庫	交番検査	0.0002 RN	23 (28)	交検線相互 5 交検線とその他の線路 5 同上と側壁 3.5
	局部検査	0.0004 RN		
仕業検査庫	仕業検査	1時間最大仕業検査3両または3両編成につき1両または編成分	23 (27)	仕業検査線と収容線相互 4.5
	起動準備	1時間最大起動準備1両または1編成につき1両または1編成分		同上の側壁 3.5
洗じょう車庫	洗じょう線	1日3両または3編成につき1両または1編成分	22 (28)	洗じょう線相互 4.3 洗じょう線とその他の線路 5.5
収容車庫	収容線	最大滞泊両数分	22 (26)	
融雪車庫	融雪線	配置30両につき1両分	23 (25)	

ただし R =配置または受持1両1日当り走行キロ

N =配置または受持両数

n =同時修繕両数

2 交番検査庫

気動車の走行キロ 50,000 km または前回から30日を経たものについて行う交番検査、また局部検査と称して形式別に10,000~20,000キロ毎に要部を解体せずに外観から検査を行う所で、検査により発見された修繕は臨修として修繕されるため、原則として修繕車庫と合造としている。なおつぎの付属設備を設ける。(1) 検査坑 気動車の下部は電車のように複雑なため、検査坑はサイドビットを持つプール型とする(2) 水栓および圧搾空気取出口(3) 道具保管箱、作業台(4) 職場。

この車庫内にもうけられた線路を交番検査線といい、車体の水平を見るため50kgレールを用い、とくに狂いのないようにしている。この線路の容量ならびに延長の算定は前表による。

3 仕業検査庫

運転キロ 600 km または48時間ごとに仕業に当り主要箇所の外観上からの検査、各種作用の良否検査、注油等を行うところ